

2009.10.1

Contents

HABITAの「新住宅」が
続々と建設中!
工事見積り内訳の見極め方

HABITAな風景
住まいは巢まい
住まい文化の葉
住健住康
Green Earth

本年春に発表された、新しいHABITAの新住宅が各所に建ち始めています。価格企画型の住宅と言うことで、都市型と郊外型の2つのコンセプトタイプが発売されました。いずれも、「200年住宅」の大きな特徴である、大断面の木構造体を使用し、なおかつコストを低減させる企画が盛り込まれています。

都市型コンセプト ~価格を企画する

都市型コンセプト住宅は、構造体としてもっとも基本である田の字の梁組みがそのまま具現化されています。

まさに飛騨高山地方に伝えられてきた「よつで(四つ出居)」の家の造りと似ています。4間四方の構成にすることで、



構造体に使われている材寸の規格を共通化させることが可能になりました。主要な構造材として使われている大梁、小梁や母屋梁の90%以上が2間梁(約3m60cm)と2間半梁(約4m50cm)のどちらかの梁で組み合わせられています。同様に、垂木に使われている、材も同じ寸法設計となっています。

もちろん、HABITAでは垂木(屋根の骨組を作る材料)も大断面です。一般住宅の80%で柱に使われているのと同じ、3.5寸角(105mm角)の材を採用しています。できる限り同じ寸法の材を使うことは、生産のラインを効率良く稼働させることになり、その上、生産の前行程として、原材の手配に関しても効率

アップにつながります。

またさらに、輸送の段階においても無駄無く積載することができます。当然、組立の施工性においても容易になると同時に工事期間を短縮し、ミスを少なくします。こうした配慮を重ねることで、まさに価格を企画するという新しいコンセプトの住宅を打ち出すことができました。

魅力を演出するオーバーハング設計

価格を低減化するだけが魅力ではありません。都市型コンセプトの住宅では、デザインや生活シーンにおいても十分な魅力を盛り込んでいます。その一つが、オーバーハングの設計です。

構造計算以上に丈夫な構造体を活用、2階の床を南北に半間飛び出させています。ややもすると4間四方の単調な真四角のデザインになりがちな外観に、陰影の深いアクセントを加わりました。総2階の住宅でありながら、1階のインテリアスペースから長い軒の出が見られます。さらにオーバーハングすることによって、HABITAの大きな魅力の一つである小屋組にも立体感を与えました。

2階は大壁、1階は真壁のコントラスト

オーバーハングと合わせた外観上の工夫として、1階と2階の外壁の造りを変えています。ポリウレムの絞られた1階部分は精悍さを出すためにアクセントとなる柱が現しとなった真壁です。逆にオーバーハングにより膨らんだ印象を持つ2階は、一つの面としての固まり感を出すために大壁としました。この真壁と大壁のツートーンにより形状だけではなく、デザインとしてのオーバーハングが完成しました。

Weekly
HABITA⁰¹²

HABITAの「新住宅」が続々と建設中!



その外観デザインにHABITAらしさのアクセントを加えているのが、水平ラインを強調する尺梁です。オーバーハングを強固に支える要の構造体としての印象を深めるためにも、この梁は現しとしています。外観のデザイン性を高めるためには、アクセントとして効果的のものでした。実際建ち始めた新住宅を見た方が、その良さを確認できます。

自然の風景の中に馴染む郊外型コンセプト

郊外型コンセプトの原型は、HABITAの原点とも言える「岩瀬牧場」です。シンプルな平屋の住宅に掛けられた急

勾配屋根の小屋裏を利用した住宅は、世界中の民家として散見され、北米の住宅でもっとも一般的な住宅の形の一つであります。海を渡って欧州ではイギリスのゲープル(切り妻)の家を始めとして、フランス・スイス・ドイツなどの山間部ではよく見かける家です。さらに洋の

東西を問わず、もちろん日本の民家にもよく見られる形です。

元来、生活の中心は、住宅の平屋の部分で充足しています。加えて小屋裏の2階に収納や予備の空間を持つスタイルです。

価格企画については、都市型コンセプトと同様に部材の寸法が規格化されています。さらに小屋裏2階建ては屋根面を2階部分の壁とするので、空間確保に関しては、球体の次にもっとも効率的な形状と言えます。

畑付きの田園住宅

郊外型コンセプトは、まさに田園の住

宅として向いています。街中の風景よりも、大きな木の下に建っている姿がより似合います。現在建てられている郊外型住宅も、窓から切り取られる風景が楽しみになる立地です。

ピクチャウインドウの中には、近景として屋根の軒先と垂木が見えます。その軒先には、雨の日の雨だれも楽しむことができます。南面にはデッキを設置して、アウトリビングも楽しめます。

家を建てることは、大地との縁を結ぶことでもあります。大地に近い平屋の暮らしはもちろん、庭の一部に畑を持つことも大切な郊外型のコンセプトの一つになります。庭と一体化した家づくりを計画しているご家族にぜひ提案したい企画型の新住宅です。

